

摂食嚥下リハビリテーション学特論・実習・臨床実習

《担当者名》 飯田 貴俊

【概要】

摂食嚥下障害のリハビリテーションを実施するための病態把握、評価法、治療法について、科学的根拠を基に知識を整理し、理論的基盤を確立した上で実践力を身につける。

【学修目標】

1. 摂食嚥下障害のフィジカルアセスメントをおこなえる
2. 摂食嚥下障害のスクリーニング検査を実施できる。
3. 摂食嚥下障害のスクリーニング検査について感度と特異度からその評価を把握できる。
4. 摂食嚥下障害の精密検査（嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査）の解析をおこなうことができる。
5. 摂食嚥下リハビリテーションにおける予後予測を科学的根拠をもって実施できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	摂食嚥下障害の概要	1) 摂食嚥下障害の特徴 2) 社会的背景	飯田 貴俊
2	摂食嚥下障害の評価	1) スクリーニング検査 2) 嚥下造影検査 3) 嚥下内視鏡検査	飯田 貴俊
3	摂食嚥下障害への対応(1)	1) 口腔ケア 2) 栄養管理 3) 摂食嚥下リハビリテーションの概要	飯田 貴俊
4	摂食嚥下障害への対応(2)	1) 代償的アプローチ 2) 治療的アプローチ	飯田 貴俊
5	摂食嚥下障害への対応(3)	1) 環境改善的アプローチ 2) 心理的アプローチ	飯田 貴俊
6	多職種連携と食支援	摂食嚥下リハビリテーションに関わる職種とその役割	飯田 貴俊
7	摂食嚥下障害に関わる薬剤	1) 摂食嚥下機能を改善させる薬剤 2) 摂食嚥下機能を低下させる薬剤	飯田 貴俊
8	摂食嚥下障害と外科的治療法	1) 嚥下改善術 2) 誤嚥防止術	飯田 貴俊

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況・口頭試問・レポート

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【備考】

外来ならびに院外においての実習を含む。

【学修の準備】

提示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献購読をしておくこと。

【実務経験】

歯科医師